

## 職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
大阪工業技術 専門学校	昭和51年10月1日	校 長 福田益和	〒530-0043 大阪市北区天満1-8-24 (電話) 06-6352-0091			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人福田学園	昭和40年3月31日	理事長 福田益和	〒530-0043 大阪市北区天満1-9-27 (電話) 06-6352-0093			
目 的	近年、温暖化や異常気象、エネルギー問題等の地球環境問題に対する関心が高まっている。一方では、生活の利便性や快適性の実現に向けた建築空間の質的向上も要求されている。したがって、建築が建築として有効に機能しうするためには、さまざまな設備や装置の必要性とともに、環境の視座を持つことが重要となる。さらに、それらを合理的に計画、設計、施工し、保守管理やリフォーム、環境に至るまでの種々の領域に求められている技術を有する設備環境技術者が、社会的に求められている。本学科は、この社会的な要求に応えるべく、建築設備の関連業界に就職しうる設備環境技術者を養成することを目的として、カリキュラムを構成している。					
分野	課程名	学 科 名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に 必要な総授業時 数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
工業	専門課程	設備環境デザイン 学科	2年(昼)	2,006単位時間 (又は単位)	平成28年文部科学省 (名称変更申請中)	—
教育課程		講義	演習	実験	実習	実技
		1,292単位時間 (又は単位)	34単位時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)	1,224単位時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)
生徒総定員		生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
50人		24人	8人	13人	21人	
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日 ※但し、年度により変更する場合がある。			成績評価	■成績表 (有・無) ■成績評価の基準・方法について 優・良・可(100～60点)を合格とし、 不可(59点以下)を不合格とする。	
長期休み	■学年始め：4月1日 ■夏 季：I部 8月10日～9月20日 II部 7月24日～8月31日 ■冬 季：I部 12月20日～1月7日 II部 12月23日～1月7日 ■学 年 末：共通 3月24日～4月5日 ※但し、年度により変更する場合がある。			卒業・進級条件	進級条件は必須科目22単位を含め、合計44単位以上履修合格すること。また、卒業条件は必須科目合計44単位を含め、総合計82単位以上履修合格すること。	

生徒指導	<b>■クラス担任制 (有・無)</b> <b>■長期欠席者への指導等の対応</b> クラス担任制により、定期的に学生本人のみならず保護者とも連絡をとり、状況確認をしながら適切な指導を行っている。	課外活動	<b>■課外活動の種類</b> 現場見学会・作品展示会・講演会・レクリエーション等 <b>■サークル活動 (有・無)</b> 野球部・エロン部・ロボット研究部等
就職等の状況	<b>■主な就職先、業界等</b> 建築設計事務所、ハウスメーカー、工務店、他 <b>■就職率<sup>※1</sup> 100%</b> <b>■卒業者に占める就職者の割合<sup>※2</sup> 83.3%</b> <b>■その他 (任意)</b> (平成27年度卒業者に関する平成28年5月時点の情報)	主な資格・検定	2級建築士・2級建築施工管理技士・CAD利用技術者、ビジネス能力検定、他
中途退学の現状	<b>■中途退学者 1名 ■中退率 3.7%</b> 平成27年04月01日在学者 27名 (平成27年4月入学者を含む) 平成28年03月31日在学者 26名 (平成28年3月卒業生を含む) <b>■中途退学の主な理由</b> 経済的困難、進路変更(就職等)、家庭の事情等 <b>■中退防止のための取組</b> クラス担任制により、日々、出席管理をしており、学生本人のみならず保護者とも連携をとり、生活の管理をも含めた指導を行っている。		
ホームページ	URL: <a href="http://www.oct.ac.jp">http://www.oct.ac.jp</a>		

※1 「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」の定義による。

- ① 「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。
- ② 「就職率」における「就職者」とは、正規の職員(1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいう。
- ③ 「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

※ 「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。

※2 「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。)

## 1. 教育課程の編成

### (教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

各専攻分野の学生の就職先業界における人材の専門性に関する動向や国または地域の産業振興の方向性、新産業の成長に伴い、新たに必要となる実務に関する知識・技術・技能などを十分に把握、分析した上で、大阪工業技術専門学校専門課程の教育を施すにふさわしい教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む）を行い、企業等の要請等を十分に活かしつつ実践的かつ専門的な職業教育を行うことを目的とする。

### (教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成 28 年 09 月 09 日現在

名 前	所 属
児玉 哲也	一般社団法人 日本建築学会近畿支部 事務長
谷山 光	一般社団法人 歴史まちづくり研究会・うじ 理事
楠本 敬二	サウスウッド設計事務所 所長
伊東 和幸	学校法人福田学園 大阪工業技術専門学校 副校長
宗林 功	学校法人福田学園 大阪工業技術専門学校 教務課長
吉田 裕彦	学校法人福田学園 大阪工業技術専門学校 教務課長
竹中 智司	学校法人福田学園 大阪工業技術専門学校 建築系科長
善才 雅夫	学校法人福田学園 大阪工業技術専門学校 進路支援室長

### (開催日時)

第1回 平成 28 年 09 月 09 日 (金) 14 : 00~16 : 00

第2回 平成 28 年 10 月 30 日 (日) 11 : 00~13 : 00 (予定)

## 2. 主な実習・演習等

### (実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

本校では、専門知識や技術の習得に加えて職業実践の場で必要とされる現場での企画力、マネジメント力、コミュニケーション力、プレゼン力、営業力、会計力等の力（本校ではこれらを総称して「真の仕事力」とする）の育成を目指しています。原則、実習・演習等に於いては、積極的に企業等のプロフェッショナルの協力を得て授業内容や方法の設定、学生の学修成果の評価を行う。とりわけ、「真の仕事力」に関連する実践的かつ専門的な能力の評価については、企業等との連携によって行う。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
設計製図 I	建築設計製図の一連の流れである、問題の認識 その解決 そして伝達のための表現といった各過程を、身近な題材を元にした設計課題を通じて学ぶ。そのなかで建築業界のあらゆる職種（企画・営業・設計・施工等）で必要とされる、考える能力、実現する能力、伝達する能力を養成することを目的とする。と同時に作品を作っていく過程を通じて、モノづくりの魅力を体感し、社会で自己実現をなし得る主体性、積極性を育む。	中平勝建築研究所 Uo. A 一級建築事務所 木村松本建築設計事務所
設計製図 II	1 年次での設計製図 I や計画系の講義、その他で学んだことをベースにし、実際に建てるができるということをも前提条件にして設計演習を行う。コミュニティ施設、オフィスビル、図書館、美術館、複合施設を課題に取り上げ、与条件の分析、全体構想、所要室の整理、模型化、図面化を通して、各種建築の概要と一連の設計工程を理解し、社会で通用する実践力を身に付ける。	緒方幸樹建築設計事務所 ヴァンテ・アン建築研究所

--	--	--

### 3. 教員の研修等

#### (教員の研修等の基本方針)

専門分野の知識・技術の進歩、制度の変更、仕事に対する価値観の変化等、業界内外の動向をいち早く理解・分析し、それを教育内容や方法に反映させるための組織的な研修・研究を教員に対して行う。また同研修・研究において、授業及び生徒に対する指導力等の修得・向上を目指す。

### 4. 学校関係者評価

#### (学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成 28 年 09 月 05 日現在

名 前	所 属
松山 義広	県立奈良朱雀高等学校 建築工学科長
藤山 等	株式会社 昭和工務店 総務部長
河野 正道	住友精密工業株式会社 総務人事部 アシスタントマネージャー

#### (学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <http://www.oct.ac.jp/other/evaluation-results.php>

### 5. 情報提供

#### (情報提供の方法)

URL: <http://www.oct.ac.jp/other/provision-information.php>

授業科目等の概要

(工業専門課程 建築設備学科) 平成 26 年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技
○			設計製図 I	建築設計製図の一連の流れである、問題の認識 その解決 そして伝達のための表現といった各過程を、身近な題材を元にした設計課題を通じて学ぶ。そのなかで建築業界のあらゆる職種（企画・営業・設計・施工等）が必要とされる、考える能力、実現する能力、伝達する能力を養成することを目的とする。と同時に作品を作っていく過程を通じて、モノづくりの魅力を体感し、社会で自己実現をなし得る主体性、積極性を育む。	1通	136	4			○
○			建築製図 I	業界のどの分野においても求められる、基本的設計能力と作図・読図能力を養成する。各タームにおいて作業項目を明確に設定し、その成果を自己認識することによって設計・製図能力を段階的に高めてゆく。前期については、製図規則の理解からスタートし、平屋建て住宅から2階建て住宅まで、課せられた条件のもとで計画・設計を行い建築一般図面の作図までを行う。後期については、木造2階建て住宅及びRC造公共建築物の建築設計製図について学ぶ。また、真剣にこれらと向き合う作業を通じて、技術者に求められる集中力や想像力なども同時に養成する。	1通	136	4			○
○			建築設備設計製図 I a	建築設備図面のうちの給排水設備および空調設備の設計図や施工図を描ける力を身につけるための基礎的な図面を作成します。建築設備の図面は、システム図と呼ばれる図面が中心です。システム図を描いたり、読み取ったりするためには一定の記号と呼ばれる記号を理解しないとできません。その図示記号についても学びます。	1前	68	2			○
○			建築設備設計製図 I b	いまや、コンピューターは、われわれの日常の道具となっています。建築設備業界も例外ではなく、CADを用いて図面を描く作業を行なうのはもちろん、図面そのものを電子メールでやり取りするのも当たり前になってきました。また、自分の考えを発表するにもコンピューターを使って行なうことも普通になっています。このような状況に対応できるように設備図面を中心にパソコンの操作を習得します。CADの基本操作の習得から、住宅の設備を中心に学びます。	1通	136	4			○
○			設備環境実験実習	この授業では、望ましい環境を形成するための知識を得て、さらに地球環境と省エネルギーについての理解を目標としている。環境についての議論は、今や「地球の存続」という命題になりつつあり、全世界で排出される二酸化炭素の1/3が建築関連業であるともいわれ、その削減に対して我々が果たす役割は日々大きくなっていると言える。この科目は、従来の建築のあり方を見直し、今後の方法を模索してゆく基礎を築くものと考えている。	1通	136	4			○
○			設備環境デザイン概論	光・熱・水・風・音と、私達を取り巻く環境に当たり前のよう存在しているこれらの要素をコントロールし、快適な生活環境を実現させることを設備エンジニアは求められている一方、地球環境への負荷を低減させることも期待されている。この授業では、これら「あたり前に身近にある要素」の新たな側面に気付くことで、建築設備を学ぶための動機づけとする。	1通	68	4	○		

		○	給排水衛生設備特論 I	給排水消火設備は、文化生活を求める上で、必要不可欠なものです。水は多様な使用され生活用水を始め産業用水、防火用水等広く使用されています。この科目では、建築設備としての見地からの給水設備、排水設備、雨水排水設備、給湯設備に関する必要な容量、機器、配管等の計算手順等を学習します。	1後	34	2	○		
		○	空気調和設備特論 I	空気調和設備は、私たちが生活するうえで、より良い生活環境を作るうえで、欠くことのできない設備です。また、電子精密産業やバイオテクノロジー産業にも必要とされている環境設備です。そこで、この科目では空気の性質から空気線図の見方、負荷計算の仕方などを基礎から図などを使って学習します。	1後	34	2	○		
		○	電気設備特論 I	我々の生活において必要不可欠なエネルギーとりわけ電気エネルギーは IT 社会においては今後益々需要が増えたと予想されます。将来の社会発展において電気の果たす役割は非常に大きく、また広範囲の産業分野に影響を与えます。この授業では、その電気の基礎原理を理解し、電気工事に必要な知識の習得により、それらの法則や応用事例を通し、さまざまな場面においての電気の効用や有効利用を学び、電気を使いこなせるエンジニアの養成を目的としている。	1後	34	2	○		
		○	資格対策講座	建築業界では資格を持ったプロフェッショナルによる仕事が行われている。その資格の代表は一級建築士や二級建築士が上げられるが、建築設備の分野で業務に就く場合、分野に特化した資格も当然のことながら必要となる。この科目では、業界における資格の必要性やその動向を調査し、時代に合った資格の取得を目指すための対策を行う。	1後	34	2	○		
		○	建築計画 I	建築というものは人間のための空間です。その空間を創造するには「建築とは何か」ということを十分に考慮しなければなりません。また、建築空間は、「機能性」「安全性」「社会性」「造形性」を含めた総合的造形物として創造していかねばなりません。この授業では、建築計画の概略 [総論] から身近な「住宅」を例に基本的な考え方を身につけることを前提に、それぞれの学科の特色を活かしながら、建築を計画・設計する能力を養います。	1前	34	2	○		
		○	建築計画 II	この授業では、前半は建築計画 I で学んだ「総論」及び「住宅」における基本的な考え方を基に、実例を交えたより具体的な計画手法を、それぞれの学科の特色を活かしながら学び、考えます。後半は建築計画の [各論] として社会教育施設から医療・福祉施設、商業施設の計画から公共建築物について演習問題を通して学びます。	1後	34	2	○		
		○	建築史 I	本講は、単なる建築史知識の暗記が目的ではなく、空間概念や設計手法、環境とのかかわり方、建築の意味を理解することが大切と考えている。歴史は単なる過去ではなく、今を生きる我々の設計に直接結びつくものであることを理解してもらいたい。本講ではそれを西洋建築・日本建築を通じて行う。	1前	34	2	○		
		○	建築史 II	本講は、単なる建築史知識の暗記が目的ではなく、空間概念や設計手法、環境とのかかわり方、建築の意味を理解することが大切と考えている。歴史は単なる過去ではなく、今を生きる我々の設計に直接結びつくものであることを理解してもらいたい。本講ではそれを近代建築を通じて行う。	1後	34	2	○		
		○	建築法規 I	ソーシャルニーズの要求に対応し、より安全でより快適な人間のための社会環境を作り出していくためには、守らねばならない諸々のルールがある。それを法規制の側面から考えていく。中でも建築に深く関わる建築基準法の、体系、構成、各規定、を実例を交えて学習する。	1前	34	2	○		
		○	建築法規 II	ソーシャルニーズの要求に対応し、より安全でより快適な人間のための社会環境を作り出していくためには、守らねばならない諸々のルールがある。それを法規制の側面から考えていく。中でも建築に深く関わる建築基準法の、体系、構成、各規定、を実例を交えて学習する。	1後	34	2	○		
		○	建築一般構造 I	この科目は建築を学ぶ上での基礎的な科目であり、できるだけ多くの建築用語を知り、その内容の理解を目指す。最初は「建築物とは」から入り、地盤の基礎知識を学び、次に木構造の構成方法（在来工法）を学び、後の設計や施工に必要な知識を習得する。また、地球環境面から解体や建設廃棄物の問題についても考え	1前	34	2	○		

				る。						
	○		建築一般構造Ⅱ	この科目では鉄骨構造と鉄筋コンクリート構造と補強コンクリート構造について学ぶ。今日の建築の多くはこれらの構造で造られており、その仕組みや特性についてよく理解し、その知識を血肉とすることは建築人として必須である。近年、良い建築を長く使い続けたいという社会的な要求が高まっており、新しい知見も取り入れながら講義を進める。	1 後	34	2	○		
	○		構造力学Ⅰ	建築の一分野に「構造設計」がある。それは、建築物を支えている骨組の設計や地震等に対して安全かどうかの検討を行うものである。構造力学Ⅰではその構造設計に到達するまでの前段階、つまり建築物に作用する力とは何か、また力をどのように扱うかという基礎理論から、静定構造物の解析方法までを学ぶ。この授業では、実務的手法に重点を置いて、建築技術者の常識として知っておかなければならない構造力学の基礎の習得をめざす。	1 前	34	2	○		
	○		構造力学Ⅱ	構造力学Ⅱでは材料力学や断面形状による力学的性質の違いを理解し、構造力学Ⅰで学んだ内容を基に、静定構造物の応力解析から各部材の許容応力度設計までを理解する。さらに後半では、簡単な不静定構造物を例にして、その解析方法の基本を学ぶ。この授業では、実務的手法に重点を置いて、建築技術者の常識として知っておかなければならない構造力学の基礎の習得をめざす。	1 後	34	2	○		
	○		情報処理演習	建築技術者でも、IT リテラシーは必修条件となっている近年、建築業界においても例外ではなくコンピュータ化が進んでいる。情報処理の基礎として、誰もがパソコンに触れることが大切である。また最近では、アプリケーション等の利用も進んでいることより使用法等についても学ぶ。	1 前	34	2	△	○	
	○		建築施工法Ⅰ	建築施工とは、工事契約に基づいて各種建築図面や仕様書に従って工事を行い、建築物を完成させることを言います。この建築施工法Ⅰの講義では、建築施工における基本的な用語や施工方法を系統的に学習し、建築技術者として最低限知っておくべき施工知識を学びます。また、2年次の施工法を学ぶ上での土台となるべき知識や能力を身に付けることを目的とします。	1 後	34	2	○		
		○	キャリアデザインⅠ	学んだ専門知識や技術を実務の場で発揮するための土台となる社会性の獲得や職業観の涵養を目的とする	1 通	68	2	○		
	○		設計製図Ⅱ	1年次での設計製図Ⅰや計画系の講義、その他で学んだことをベースにし、実際に建てることができるということ为前提条件にして設計演習を行う。コミュニティ施設、オフィスビル、図書館、美術館、複合施設を課題に取り上げ、与条件の分析、全体構想、所要室の整理、模型化、図面化を通して、各種建築の概要と一連の設計工程を理解し、社会で通用する実践力を身に付ける。	2 通	136	4			○
	○		建築製図Ⅱ	建築業界のどの分野においても求められる、基本的設計能力と作図・読図能力を養成する。各チームにおいて作業項目を明確に設定し、その成果を自己認識することによって設計・製図能力を段階的に高めてゆく。前期については、課せられた諸条件のもとで鉄筋コンクリート構造の4階建事務所ビルの計画・設計を行い、建築一般図面や各詳細図、構造図の作図までを学ぶ。後期については、鉄骨造4階建て建築物の計画・設計を行い、一般図から構造図等の作図を行う。同時に、真剣に設計作業や図面と向き合う作業を通じて、技術者に求められる集中力や想像力などを養成する。	2 通	136	4			○
	○		建築設備設計製図Ⅱa	建築設備図面のうちの給排水設備および空調設備の設計図や施工図を描ける力を身につけるための応用的な図面を作成します。建築設備の図面は、システム図と呼ばれる図面が中心です。システム図を描いたり、読み取ったりするためには一定の記号と呼ばれる記号を理解しないとできません。事務所ビルについて、給排水・空調・電気等の図示記号についても学びます。前期は、基本設計を	2 通	136	4			○

				します。そして後期は、実施設計を学びます。						
○			建築設備設計製図Ⅱb	いまや、コンピューターは、われわれの日常の道具となっています。建築設備業界も例外ではなく、CAD を用いて図面を描く作業を行なうのはもちろん、図面そのものを電子メールでやり取りするのも当たり前になってきました。また、自分の考えを発表するにもコンピューターを使って行なうことも普通になっています。このような状況に対応できるように設備図面を中心にパソコンの操作を習得します。この科目では建築設備設計製図Ⅰbの内容を受けて応用的内容に発展します。	2通	136	4			○
○			電気設備特論Ⅲ	これまでの集大成として、自分で建物に対し、電気設備に関する計画を行うための研究をおこなう。	2後	68	4	○		
○			卒業制作	建築設備分野の卒業制作製を目的とする。テーマ選択、資料収集、エスキス、製図、模型作成などの作業をゼミ形式で進める。	2後	68	2			○
	○		給排水衛生設備特論Ⅲ	これまでの集大成として、自分で建物に対し、給排水衛生設備に関する計画を行うための研究をおこなう。	2後	68	4	○		
	○		空気調和設備特論Ⅲ	これまでの集大成として、自分で建物に対し、空気調和設備に関する計画を行うための研究をおこなう。	2後	68	4	○		
		○	給排水衛生設備特論Ⅱ	給排水消火設備は、文化生活を求める上で、必要不可欠なものです。水は多岐に使用され生活用水を始め産業用水、防火用水等広く使用されています。この科目では、建築設備としての見地からの給水設備、排水設備、雨水排水設備、給湯設備に関する必要な容量、機器、配管等の計算手順等を学習します。1年後期の給排水衛生設備特論Ⅰでは主に戸建住宅の設備について学んだが、Ⅱでは、オフィスビルや集合住宅、公共建築物など、大規模かつ不特定多数の人が使う建築物を通じて学ぶ。	2前	34	2	○		
		○	空気調和設備特論Ⅱ	空気調和設備は、私たちが生活するうえで、より良い生活環境を作るうえで、欠くことのできない設備です。また、電子精密産業やバイオテクノロジー産業にも必要とされている環境設備です。そこで、この科目では空気の性質から空気線図の見方、負荷計算の仕方などを基礎から図などを使って学習します。1年後期の空気調和設備特論Ⅰでは主に戸建住宅の設備について学んだが、Ⅱでは、オフィスビルや集合住宅、公共建築物など、大規模かつ不特定多数の人が使う建築物を通じて学ぶ。	2前	34	2	○		
		○	電気設備特論Ⅱ	我々の生活において必要不可欠なエネルギーとりわけ電気エネルギーは IT 社会においては今後益々需要が増えたと予想されます。将来の社会発展において電気の果たす役割は非常に大きく、また広範囲の産業分野に影響を与えます。この授業では、その電気の基礎原理を理解し、電気工事に必要な知識の習得により、それらの法則や応用事例を通し、さまざまな場面における電気の効用や有効利用を学び、電気を使いこなせるエンジニアの養成を目的としている。1年後期の電気設備特論Ⅰでは主に戸建住宅の設備について学んだが、Ⅱでは、オフィスビルや集合住宅、公共建築物など、大規模かつ不特定多数の人が使う建築物を通じて学ぶ。	2前	34	2	○		

		○	FM基礎	ファシリティマネジメント（以下、FM）とは、「業務用不動産（土地、建物、構築物、設備等）すべてを経営にとって最適な状態（コスト最小、効果最大）で保有し、運営し、維持するための総合的な管理手法」と定義されている。このことから、建築設備分野を担うエンジニアであってもFM的な視点を持つことが強く求められていると言える。機能を満足させることだけを目的とするのではなく、FMを通じて環境にも配慮できるエンジニアの育成を目指す。	2 前	34	2	○			
		○	設備環境デザイン特論	光・熱・水・風・音と、私達を取り巻く環境に当たり前のように存在しているこれらの要素をコントロールし、快適な生活環境を実現させることを設備エンジニアは求められている一方、地球環境への負荷を低減させることも期待されている。この授業では、これら「あたり前に身近にある要素」の新たな側面に気付くことで、建築設備を学ぶための動機づけとする。（一年次の設備環境デザイン概論を更に発展させた内容となります。）	2 前	34	2	○			
		○	リフォーム・メンテナンス工学	快適性を求めるリフォーム・メンテナンスが盛んに行われてきている。ライフサイクルの変化への対応、便利な設備機器の導入等、住まいに対する価値観も変わってきている。それだけでなく、これからの日本の住宅問題や地球環境問題の観点からもリフォーム・メンテナンスの重要性が見直されてきている。リフォーム・メンテナンスの基礎知識を習得していく。	2 前	34	2	○			
		○	資格対策講座	建築業界では資格を持ったプロフェッショナルによる仕事が進められている。その資格の代表は一級建築士や二級建築士が上げられるが、建築設備の分野で業務に就く場合、分野に特化した資格も当然のことながら必要となる。この科目では、業界における資格の必要性やその動向を調査し、時代に合った資格の取得を目指すための対策を行う。	2 前	34	2	○			
		○	建築材料学Ⅰ	この科目は現代建築における主要な建築材料であるコンクリートについて詳しく学び、後半は同じく主要材料の鋼材（鉄骨や鉄筋等）について学ぶ。また今日地球環境保護の観点から、適切な廃材処理の方法・施工時の環境への配慮等が必要とされており、それらについても学ぶ。	2 前	34	2	○			
		○	建築材料学Ⅱ	建築材料Ⅰの続きとしてここでは出来るだけ多くの材料を取り上げていく。まずは金属製品、特に構造用鋼材の形鋼や棒鋼について学び次にアルミサッシ等の特徴を知る。次に建築の主要な材料である木材について、地球環境の上からも世界の木材事情等を学び木材の大切さを知る。次に石材、ガラス、プラスチック等の知識を習得を目指す。	2 後	34	2	○			
		○	建築施工法Ⅱ	1年次で学んだ建築施工法Ⅰを基にして、建築材料学、一般構造、法規、構造力学等の知識を統合し、深く施工技術を学ぶ教科である。最近では現場での改善・改良がすすみ新工法が数多く考察されているが、この教科では、将来、経験や知識を積み重ねていくために必要な施工知識を得ようとする姿勢を得ることを目標とする。	2 前	34	2	○			
		○	建築積算	建築物の実現は予算の確立がなければ不可能であり、実社会でもコストに対する重要性が認識され、その関心も高まっている。建築における積算の位置づけを考察しつつ、実際の建築工事にかかわる設計図書から工事費等を予測する積算の技術を修得する。	2 後	34	2	○			
		○	キャリアデザインⅡ	学んだ専門知識や技術を実務の場で発揮するための土台となる社会性の獲得や職業観の涵養を目的とする	2 通	68	2	○			
合計					43 科目	2,550 単位時間（110 単位）					